

2. ビジネスプラン

①ビジネスプランの名称:

花束メーカー

②ビジネスプランの概要

自分でバーチャル花束を作成し、実際の花束として購入できる。

③ビジネスプランを着想した社会的背景

※このビジネスプランを着想するきっかけとなった社会的背景や問題点、ニーズなどをご記入下さい。

花屋には入りづらい雰囲気があると感じている人がいること。
入りづらい理由として、外から店内の様子が見えない・値段がわからない・何か買わなければいけない雰囲気がある・声を掛けられそうなどがある。

④ビジネスプランの内容

※顧客、ターゲットは誰か、どんな商品、サービスを提供するのか、商品、サービスの内容、どのようにして販売するのか等、図表等を活用しながら、応募ビジネスプランの内容を分かりやすくご記入下さい。

ターゲットは花屋に入りづらいと感じている人や花が好きな人。
花屋に行かなくても家からサイトにアクセスし、自分で花束を購入することができる。購入できる花束には、花屋がつくる花束と自分で作る花束の2種類がある。自分で作る花束は、画面上で花を選んで花束づくりのシミュレーションをすることができる。シミュレーションをする画面では、花束を3Dでいろいろな角度から見ることができ、高さや角度を調節しながら作ることができる。花束の作り方が分からない人向けに用途・種類・対象・色合い・予算などの条件を設定してもらい、見本やヒントを表示する。シミュレーションした花束は花屋の方に添削してもらってもできる。出来上がった花束は注文したら花屋の方が実際の花束をつくり、宅配してもらえる。イベントとしてバーチャル花束コンテストを開催する。

```
graph LR
    User((利用者)) --> Self[自分でつくる花束]
    User --> Florist[花屋がつくる花束]
    Self --> Laptop[バーチャル花束作成]
    Florist --> Laptop
    Laptop --> Revisions[添削]
    Laptop --> Order[注文]
    Revisions --> Photo[実際の花束の写真  
を利用者へ見せ、  
確認してもらう]
    Photo --> Order
```

⑤応募ビジネスの優位性及び市場動向

※応募ビジネスの優位性は何か、競合する商品、サービスは何か、現在の市場動向や市場規模、将来性等を踏まえながらご記入下さい。

- ・花屋がつくった花束には限りがあるが、花束づくりをシミュレーションし自分の好きなようにつくることができる。
- ・花の選び方など花束づくりの方法を習得でき、センスを磨くことができる。
- ・花屋まで足を運ばなくても家からサイトにアクセスすればいいので簡単に気軽に花束づくりができる。
- ・相手が人でないので時間に制限がなく、自分のペースでゆっくり花を選ぶことができる。
- ・バーチャル花束づくりは、必ずしも注文する必要はないのでアクセスしたら誰でもできる。バーチャル花束コンテストの参加のみも可能。

⑥オープンソースの活用

※応募ビジネスを実現させるにあたり、オープンソースをどのように活用するのか、具体的なオープンソースソフトウェアやシステムを提示しながらご記入下さい。

Blender で 3 次元 CG 画像を作成する。
サイト構築は Ruby on Rails
Web 公開は Linux
Web サーバは Apache

⑦応募ビジネスにおける課題、リスクと回避方法

※応募ビジネスを実施する上での課題は何か、抱えているリスクとその回避をどのように想定しているかご記入下さい。

- ・顧客に興味を持ってもらえるかということ。
対策: 一般人向けのバーチャル花束コンテストを開催する。
- ・花束の買い方を習得し、リピーターに期待ができないということ。
対策: 友達紹介制度を導入する。
- ・バーチャル花束と本物の花束の違い
対策: 注文の前に、顧客がつくったバーチャル花束をもとにし花屋が実際の花束をつくる。
その花束の写真を顧客に見せて確認してもらった上で注文できるようにする。

